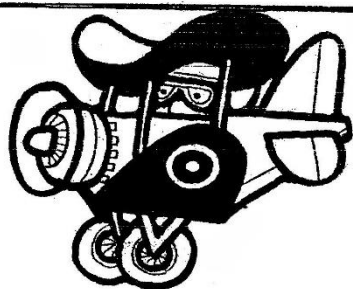


1990年度

戦争体験を語り継ぐ集い 記録集



1990年 8月7日 (火)

於 緑社会教育センター

戦争体験を語りつぐ集い



戦争のおそろしさ。ざんこくさ。

平和のすばらしさ。大切さ。

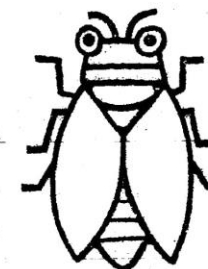
みなさんは、知っていますか。

緑社会教育センターでは、実際に戦争を体験された方々に集まっていたいただいて、お話を聞く会を開きます。

ぜひ参加して、平和な世界を築いていくことの大切さを考えてみませんか。

と き 8月7日 (火)
午前10時～12時

ところ 緑社会教育センター
3階視聴覚室



講 師 小 出 裕 先 生

(日本福祉大学付属高校講師)

戦争当時の様子を思い浮かべる品物が家にあ
って、当日展示してもいいとお家の方からお許
しのでた人はセンターまで連絡下さい。

☎ 621-9121

若い世代は、どうする

小 出 裕

今回は特に、若い人の積極的な参加がありました。若い世代からの質問に「体験者」が答えるだけでなく、逆に「体験者」が若い世代に問題を投げ掛けることを通して、文字どおり『戦争体験を語り継ぐ』貴重な集いとなりました。

センター内外の方々のご協力に感謝申し上げます。

「戦争体験を継承しよう」—とよくいいます。

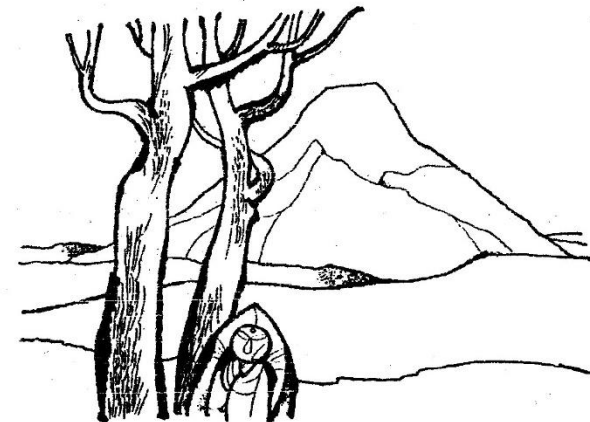
『財産』を受け継ぐことについては誰しも、取り合いっこになるほど敏感になりますが内外の人間・民族の尊厳を気の遠くなるほど粗末にした、先の戦争の『負の遺産』についてはどうでしょうか。早く忘れたい、想いだしたくないというのが、あるいは体験者のお気持かも知れません。「戦争の犯罪に時効なし」というのが、国際的な常識ですし、「国際化」の道を選ぶようとしている立場からいっても、避けては通れません。

戦争体験を、体験者お一人お一人の記憶や実体験の範囲に留め置くならば、「風化」現象は避けられませんが、その範囲を越えて、『負の財産』、『戦争の責任』、『戦後の責任』に関して、きちんと「明らかにすること」「背負うこと」「清算すること」などがなされていいと思います。

さらに、それらについて、次代を担う新しい世代が実行すること、それが「戦争体験の継承」の核心ではないでしょうか。

今回の『集い』が持つ貴重な意義も、そこに一つあったと思います。

ありがとうございました。



戦争体験を語り継ぐ集い

名古屋市

緑社会教育センター 視聴覚室

一九九〇年八月七日（火）

午前十時～十二時



主催者 あいさつ 栗山 社会教育主事

本日は、暑い中をお集まり頂き、ありがとうございます。これから、戦争体験を語り継ぐ集いを始めたいと思います。

初めに、なぜこうした会を社会教育センターで持つかということですが、実は、この会は、当社会教育センターでは、昨年に引き続き2回目になる訳です。

昨年は、二十三名の方々が集まり、様々な戦争に係わる思い出話を語って頂きました。そして、大きな歴史の流れの中で戦争、ていつたい何だったろうということが話題の中心になりました。

しかし、語り継ぐ会にも係わらず、語る側の方々が殆どで継ぐには、至りませんでした。きょうは、逆に語る側が少くて、継ぐ側が多く大変喜んでおります。

この戦争体験を語り継ぐ会は、現在縁と熱田の二つの社会教育センターで行われています。熱田は愛知時計で有名な熱田空襲を記録する会が中心となっており、こんな本が出されています。

こうした、社会教育センターの取組がきっかけとな

って、他の社会教育センターや自治体で語り継ぐ会が活発に行われることを期待しています。

それでは、大変遅くなりましたが、講師の小出裕先生をご紹介いたします。小出先生には今回の取り回しをお願いいたしました。

では、よろしくお願いいたします。

司会

ただ今、紹介頂きました小出です。昨年度に引き続き司会をさせて頂き光栄に思っています。昨年は、短い時間に多くの方々にはひっきりなしに話して頂き、司会進行が困ってしまったほどでした。

しかし、語り継ぐ会ですので、ただ語るだけでなく語る―受け取る―考え合うまで一人一人が、思いを込めて参加して欲しいと思います。

特に今日は若い人が多く参加しているのでとてもいいことだと思えます。どんどん発言して前のめりになって参加して、戦争のどこがプラスでどこがマイナスかつねに考えて話を進めたいと思います。

それでは、最初は自己紹介から始めたいと思います

自己紹介の仕方ですが、最初に語る側の方は、終戦の日八月十五日に何をしていたかをご自分の名前とともに話していただきたいと思えます。

次に継ぐ側の方は、ご自分の名前とともに戦争という言葉でどんなことが思い浮かぶか話して頂きたいと思えます。

では、語る側の人からお願いします。

Aさん(男性)

私は、八月十五日は、海軍航空隊鳴尾基地の通信兵として、アメリカ軍のだす電波を傍受し、暗号を解読していました。

Bさん(男性)

私は、台湾の中部にある台中の海軍の飛行場の警備をしていました。星ひとつの陸軍二等兵でした。

Cさん(男性)

私は実は戦地に行っていないので、今日は聞く立場でできました。終戦の日私は、厚木にある陸軍通信学校

に居り、暗号の解読練習をしていました。もう飛び立つ飛行機がなくて、戦地に行くことができなかったのです。

Dさん(女性)

私は、昭和十九年三月十二日の大空襲で母を亡くし私だけ命からがら逃げ伸びて助かりました。円上で空襲に会いましたが、周りが火の海で、暑いので顔だけ防火用水の水面から出していました。

今思い出しても、ぞっとします。空襲の後、大高に疎開し、その後の鳴海に嫁ぎました。残され、頑張って今日まで生きてきた気がします。

Eさん(男性)

八月十五日は、愛知航空の徴用で引っ張られていました。ここに参加されてみえる高校生位の学生さんも我々と同じように徴用で来ていました。

仕事は、地下工場を作ること、三重県の久居で発掘作業をしていました。三菱・住友・愛知・海軍の合同で、金星という発動機を開発していました。

八月十五日に、「集合せよ」という指令が出され、また、「もっと、しっかりやれ！」と尻を叩かれるのかなと思っていたら、終戦の玉音放送でした。ですから、終戦を知ったのは、久居の地下工場の表の広場です。

司会

では、こんどは隣り側の人をお願いします。

Fさん(高校生・男性)

戦争というとぼくは原爆を思い浮かべます。先日、熱田空襲を語る会に参加して、戦争は、原爆だけではないことを知りました。今日もいろいろなことを聞いて勉強したいと思います。

Gさん(高校生・男性)

私の父が戦争に強い興味を持っていたせいで、小さい頃からよくいろいろな所へ連れていってもらいました。小学校の時には戦争について自分で調査して、戦争についてかなり知っているという自信があったので

Jさん(高校生・女性)

Iさんと同じく戦争は本の中のことだと感じ、実際に身近にあったとしても思えません。

Kさん(高校生・女性)

戦争というと原爆以外のことはしらなかったで、今日話を聞きにきました。

Lさん(主婦)

私は昭和三十二年生まれで、父・母から戦争の話をよく聞きます。しかし、今の生活をしていると、日本に戦争があったことを忘れてしまう毎日です。

学校では、「日の丸」「君が代」が当たり前になっているし、テレビでは、戦争ものを非常に美化して放映しています。そういう中で、戦争を忘れないようにと思い今日参加しました。

ぜひ、生の声を聞きたいと思います。

Mさん(中学生・女子)

私は、戦争について何も知らないので、今日ここに

すが、一昨年、熱田空襲を語る会で名古屋近辺にすぐ大きな空襲があったことを知り、まだまだ、知らないことが一杯あることが分かりました。

今日のこの会でいろいろなことを学びたいと思います。

ぼく自身、戦争はいけないことだと思うけれど、戦争は、歴史の転換に大きな役割があったのではないかと思います。

Hさん(大学生・男性)

ぼくの高校も大学も大空襲にかかわりのある場所に興味を持っています。

しかし、自分自身戦争を体験していないので、戦争は、遠い過去の昔話のような気がします。

Iさん(高校生・女性)

戦争イコール原爆と捉えていました。高校2年のとき社会の先生から、熱田空襲の話を聞き、身近にこんな戦争があったのか驚いています。

きました。

Nさん(主婦・Mさんのお母さん)

戦争中は両親と満州の奉天に住んでいました。とっても私は一歳で全く記憶がありません。父はシベリアに行き、ソ連に抑留されました。

母は、私を連れて、満州から引き上げてきたそうです。そんな状態で全く記憶がないですが、ぜひ、話が聞きたいと思います。

Oさん(高校生・男性)

学校で戦争についての聞き取り調査の宿題が出たので来ました。

司会

今日で宿題が出来ちゃったわけだね。(笑い)

Pさん(主婦・Oさんの母)

今日、こういう会があることを知り息子と一緒にきました。

Qさん(主婦)

私は第一回もきました。第一回の時は、途中からしか聞けなかったので、今日は最初から聞こうと思って来ました。

司会

自己紹介の中で、いろいろ出して頂き有難うございました。それでは、語り継ぐ側が、語る側へ質問をだして、それに答えて頂くという形で話を進めたいと思います。

長くなり、次の方の話す時間が短くなるようでしたら、途中で切りますのでご了承願います。
では、質問の方よろしく願います。

Hさん(大学生・男性)

円上で空襲に会われたDさん、もう少し詳しく話を聞かせて下さい。

Dさん(女性)

あれは、三月十五日のことでした。夜十時過ぎに空

母は、用水池の近くに立っていたようですが、たくさんの方が次々に用水に入ってくるので、別れ別れになってしまいました。

その用水に一晩中つかっていたような気がします。その間の記憶が定かではありません。ただ、火事風というか火事によって起きた猛烈な熱風が一晩中ビュウビュウ吹き荒れていたことを覚えています。

朝、白みかけて、警防団の人が助けにきてくれました。近くにあった防空壕まできたとき気を失って、そのまま前のめりに倒れてしまいました。

しばらくたって気がつき、見失った母を探しに出掛けました。まる裸の黒焦げの死体が三つ四つ積み重なってころがっておりとても怖かったです。

母は炊き出しの役員になっていたのです。炊き出しの場所に出掛け、尋ねてみましたが、手掛はつかめませんでした。

「寺にたくさん死体があるから探してみたら」といわれ、探しに行くことにしました。

名鉄で鳴海の伯母(母の姉)に戻り、翌日、伯母と二人で円上の寺で遺体を探しました。一つ一つ棺を

襲撃報が入りました。丁度、夜ようと思っていた時のことで、私と母と弟の三人でわけがあって、白金の郵便局にいました。翌日の三月二十日に大高に疎開することになっていました。

空襲警報が入って間もなく、焼夷弾が雨、あられと降ってきました。郵便局の貴重品を守らなければいけないのでそこに留まっていたため、逃げ遅れてしまいました。

外に飛び出すと、あちこちが火の海です。炎のため暑くて前に進めず、たくさんの人達が立ち止まっていました。私も暑いので近くにあった用水池に飛び込みました。

暑いので、他の人も次々に飛び込んできます。私は、顔だけ水面から出して暑さを逃れていましたが、背中に背負っていた荷物のを他の人が押すので、背が低かったこともあり、濡れそうになりました。

必死になって荷物をはずそうとしてもはずれません。それを見て、見知らぬ人がはすしてくれました。

暑くなると、片方の手で泥水をすくい、顔にかけました。

開けると、顔が半分焼けたものや、真っ黒なものがあ

り、私も二十三歳だったので、とても怖かったです。

棺の数も五十や六十でなく、疲れてしまいました。

一通り見たものの母は見つかりませんでした。しかし、一つだけ見忘れた棺に気付き、それを開けてみると母でした。

殆ど遺体には傷がなく、棺を開けると鼻血がタラ〜と流れでました。時計と三十円を懐に持っていました。私の一存で八事の火葬場で、火葬してもらいました。悲しさを通り越して涙も何も出ませんでした。

この大空襲で沢山の人が死にました。円上の家の隣

の人は、十一人家族で、お父さんと疎開先から帰ったお嬢さんを除いた九人が亡くなりました。

金山から円上までずっと焼け野原でなぜか、東邦ガスだけが被害をまぬがれました。防空壕に入った人も上から焼夷弾が落ち、真っ黒になっていました。

その後、大高の母の実家にお世話になりましたが、私だけ生き延びることができたのは、仏様のお陰であり、何が何でも生きなければいけないと悟り、今日まで生きてきました。もう絶対戦争はいやです。

司会

他に質問があれば出して下さい。

Gさん（高校生・男性）

陸軍の学校にみえた方がありましたが、当時の学校について教えてください。



Cさん（男性）

学校生活といっても、乱数表を使った暗号解読の練習ばかりでした。陸軍暗号抄というのがあって、第一から第五部まであり、第四部までアメリカ軍に解読されていました。

Aさん（男性）

私は、海軍通信学校に無理に召集され、山口県の防府に行かされました。

学校というけれど、皆さんの思うあの学問をしたり基礎的な学力を付ける学校ではなく人殺しに役立つ知識を無理矢理教える所でした。

例えば、私はモールス信号をおぼえさせられました

三回も殴られると前のあざが消えず、ハンモックで寝ると当たって痛いのでうつむいて寝ました。

これが、帝国海軍のかくされた実態です。

司会

当時の学校関係のことで、質問があればだして下さい。

Bさん（男性）

私は、昭和十九年三月に惟信中学を卒業しました。今の惟信高校です。昭和十六年の十二月八日が太平洋戦争開戦ですが、開戦前日の十二月七日まで、一週間高蔵寺の弾薬工場に学徒動員に行っていました。

弾薬の信管作りをしていました。支那事変後の昭和十四、十五、十六年にも動員があり、仲田の陸軍補給廠に行きました。弾帯と薬きょうを繋ぐ仕事です。

女子学生は、火薬をつめる仕事をしていました。

火薬は、チツソが含まれていてからだによくないといわれていました。そのため、火薬づめをする女子学生だけ、牛乳を飲ませて貰えました。

電気の法則についても講師の将校が理論的でなく、理屈めきで覚えさせられました。

覚えないと、殴られ、テストの成績が悪いと戦争の最前線に真っ先に行かされました。

一番悪いのはサイパンで、同期の仲間のうち、16人が行きました。

私は幸い、成績がよくて、内地で済みました。

その頃、よく言われた言葉に人的資源というのがありました。石炭・石油のように人間が資源なのです。

ところで、学校は今のようには自由なところではありませんでした。（今もあんまり自由ではないかもしれませんが）一番恐いのは、夜になると行われる制裁でした。この制裁は樫の木でできた精神注入棒で、

出来の悪いグループが思い切り殴られるのです。

朝、起きるのが少しでも遅れると、そのグループ全員が廊下に並ばされて、紫色に腫れ上がるまで尻を殴られるのです。

今日はやられるぞと思うと、ズボンの下ヘタオルを入れたものでした。少なくともこの制裁が週に一回はあり、多いと週二〜三回にもなりました。

私は、それが羨ましくて、なんとかその仕事につけないかと思っていました。女子学生と仕事ができることも魅力だったです。（笑い）

この補給廠の動員ばかりでなく、田植え、稲刈りの動員もあり、学校で授業できるのは、全体の三分の二位でした。

動員が終り、さあ学校だと登校したその日、「本日八日未明、帝国海軍は、米・英と交戦状態に入れり」で有名な太平洋戦争の放送が入り、あちこちで万歳の歓声が上がっていました。

部活動は、野球・テニス・バレー等ができなくなつて、国防競技部というクラブに無理矢理入らされました。

国防競技部は、戦争に直結するクラブで、体力検定で初級・中級・上級に分けられました。

たとえば、百メートルを十六秒で走ると初級でした。十三秒で走ると上級でした。

十分勉強してないので今でも私にはコンプレックスがあります。英語は敵国だから、習わなくてもいいとされました。

名工専（いまの名古屋工業大学）の入試問題は、飛行機から爆弾を落とすという落ちていくかその軌跡を言いなさいといった、戦争に直結した問題でした。

司会

他に質問があったらどうぞ？

Cさん（男性）

皆さんは、爆弾って、どんなものか知っていますか。爆弾は、丁度、酸素ボンベのような形をしています。まるで、雨・アラレのように降ってきて、落ちるとものすごい振動で、まるで地震のようです。落ちたあとに、水がたまって、池ができるんです。天白川と扇川の間の土地にたくさん爆弾が落ちて、いっぱい池ができていました。

司会

今、たくさん池ができたという話でしたが、四十五年たったいまでも残っている跡がありますか。

Aさん（男性）

私の従姉妹が高に住んでいたのですが、長寿寺に爆弾が落ちて、従姉妹を含め二・三人が死にました。また、私の兄が前の輪に住んでいましたが、やはりたくさん爆弾が落とされて、兄の家は全壊しました。残念なことに緑図書館にも空襲について書かれた記録がないのです。緑区で何千人という人が死んだにもかかわらず、瑞泉寺がどうしたとか、桶狭間の合戦がどうであったか、とか関係のない話ばかりです。もっと大切な戦争の記録がないのです。

司会

今この地図に関係した話でしたが、この地図に関して他に意見や質問がありませんか。

Eさん（男性）

この地図はちよっとおかしいんじゃないかと思えます。というのは、爆弾はもっとたくさん、広範囲に広がってましたから。

Aさん（男性）

（黒板に掲げられた地図を見て）

この地図、ちよっと違うんじゃないかなあ。もっとたくさん爆弾が落ちている。

黒板に掲げた地図（昭和五十二年鳴海中学歴史クラブ調査）



司会

この地図は鳴海中学校の生徒さんが、聞き取り調査をもとに作ったものです。現在空襲の状況を表す、これが唯一の記録です。ですから、今のお話のように、修正箇所があれば、これをもとにどんどん新しいより正確なものに作り変えていったらどうかとおもいますが、皆さんどうですか。

参加者一同

それはいいことですね。やりましょう。

Aさん（男性）

この辺り（一ノ線の北を指さして）二は焼痕や、爆弾が一杯落ち、この部屋の半分位のあなが一杯あいていました。

Eさん（男性）

爆弾による穴も一杯あったのですが、土木関係の人の話によれば、爆弾による穴はなかなかうまらないそうです。

司会

八月十五日の話は聞きましたが、戦争中の皆さんのお気持ちはどうであつたかお聞きしたいと思います。

Eさん(男性)

名古屋に最初に空襲があつたのは、今から考えるとB29ではなくて、B29だつたような気がします。

最初の空襲はたいしたことがなくて、千早にあつた陸軍病院の隣の馬小屋に焼夷弾が落ち、小屋が焼けたのを見て、「ああこれが、空襲か。たいしたことはないな。」と思ひました。しかし、それが大まちがいです。昭和十九年三月十二日、十九日、二十五日の空襲で名古屋は、全滅してしまいました。

特に、二十五日の空襲では、はじめて、落下傘に焼夷弾をつけて投下されました。焼夷弾で周りを明るくさせて、爆弾を落としたのだと思います。あちこちで焼夷弾の落下傘が落ちていました。

私は、書類の都合で一日、愛知航空の徴用が運れたので、六月九日の大空襲に会わず、命拾ひをしました。六月十日に愛知航空に行きますと、まわりは空襲で

司会

今年は、高校の文化祭で空襲について発表されるそうですので、Eさん手伝つてあげてください。

Gさん(高校生・男性)

この地図にビラと書いてありますがなんですか。

Aさん(男性)

B29が落としていつた戦争は止めなさいと書かれたものです。

Eさん(男性)

私は一枚拾つて読みましたが、日本語で、「戦争をいいかげんに止めなさい」と書いてありました。

Bさん(男性)

ビラは、拾つてよんではいけないと言われていました。軍部が余計な混乱を避けようとしたのだと思います。

死んだ人たちの死体があちこちでごろごろ転がっており、職員の一人在私の顔を見るなり、「いい所に來てくれた、これから木工部へいって、棺おけを六百作つて貰つてきてくれ」と頼まれました。

日比野一体には死体が三千は大げさかもしれませんがかなりの数ありました。白鳥橋にも、まるでまぐろのように転がり、兵隊がトラックにボンボン投げ入れていました。どこに持つていくか聞いたところ、八事の火葬場とのことでした。

疎開していた豊明の役場に戻つたところ、「いいところに来た。熱田の大空襲で職員が七人行方不明だから探してくれ」といわれでかけました。

日比野一帯は一面に死体が並べられ、むしろがかけられていました。夏のことなので、くさつてものすごい匂いを放っていました。

むしろを取つて、三日間捜し、七人全員みつけることができました。久居の工場に戻ると皆が死体を抱いた訳でもないのに「死人臭い、死人臭い」といいました。

本当に戦争は残酷です。

Aさん(男性)

わたしは、ここにみえる若い人達に、戦争が家庭にどんな影響を及ぼしたのか考えていただきたいのです。戦争による家庭の悲劇は、一杯ありました。例えば結婚して身籠り、そのあとで戦争に夫を取られ、夫がそのまま帰らぬ人となつた悲劇はいくらでもありました。

司会

そうした例は昨年の語り継ぐ会でたくさん出されましたね。

Cさん(男性)

防衛庁がたくさんの兵器を買うために予算化をしているけどそれは、皆さんの力で絶対にやめさせなければいけません。戦争は勝つても負けてもいけない。

Aさん(男性)

私の母の友達におすえさんという人がいました。この人は絞りの仕事に携わっていました。

この人は、いつも少しグレていた私に「人間は上の人のいうことを聞いて、こつこつやっていたら、いつかきつと良いことがあるよ」と説教してくれました。

おすえさんには、「たけ」という一人息子がいましたが、おすえさんの言う通りきれいなお嫁さんをもっていました。

ところがすぐに、たけさんが沖縄の第六連隊に兵隊として採られることになりました。その頃は出征すると名古屋城にあるれんべい場で家族は送ることになっていました。ここで送ってお別れなのですが、すえさんと新妻は行進するたけさんを追って名古屋駅まで、走り続けました。息せき切って息子を追い続ける姿を見て、親とはこういうものだということをつくづく知らされました。

ところがそれから、暫くたって或る日のこと。

「たけが死んだ。」と、半狂乱になっておすえさんが母のもとにきました。気が狂ったように畳をたたきました。「気をおとすな」とか「しっかりせよ」なんて空々しいことはとても言えません。

親・子・妻・恋人を引き裂く戦争のむごたらしさ、

一定の比率で交換されたのですが、猛烈なインフレでそれまでのお金が大抵同然になりました。例えば、十円で買ったものが五百六百元になったとか。

昭和二十一年には米一升が三百円もしました。

Eさん(男性)

私が愛知航空に入った時の応募ポスターに愛知航空で勤務中に死ぬと一万円、一万五千円買えと書かれていました。

当時その辺にあるお寺が二千元で買えました。豊明にあった立派なお寺が二千五百円でしたから、お金の価値が分かったと思います。

帰る途中に空襲警報がかかるともう一度愛知航空まで戻っていったものです。

旧の十円札に切手のような証紙を貼って新円とみなしていました。

Aさん(男性)

この地図でお寺になっているところで鐘があるところは全部釣り鐘を供出させられました。兵器に使う鉄

悲惨さを痛切に感じました。

私は、そのとき、おすえさんの言っていた「人間は上の人のいうことを聞いてコツコツやれば、きつと良いときがくる」という言葉に「待てよ、本当にそうだろうか」と疑問を感じるようになりました。

歴史の歩み、政治の強大な力の下では、個人の努力なんて何ともならないことをそのとき悟りました。

Dさん(女性)

新円に切り替わったのは何年でしたか。あれくらい情けなかったことはなかったです。映画も見ず、一切の贅沢もせずためた貯金がなしになった。

司会

たしかあれば、昭和二十一年の二月です。

Gさん(高校生・男性)

切り替えができなかったのですか。

Bさん(男性)

がなくなってきたのです。

Cさん(男性)

私は長靴がとても欲しかったです。しかし、長靴は四百円しました。その頃、家が八百円でしたからいかに法外な値段であったかわかると思います。

結局、家を買えず、長靴に変わりました。

食べるものも自由にならず、私はいまでも、ご飯つぶ一つぶものこしません。グサイじじいだと思われるかもしれませんが。

Dさん(女性)

さつまいもの芋づるを食べたんですよ。

Cさん(男性)

芋づるならまだいいですよ。私はタンポポを食べました。



Aさん

食料事情はともかく、若者の気持ちはとても暗かったです。必ず戦争に自分とはとられるんだという何とも動かし難い事実。それにかなり高い確率で死が待っている。無論命が惜しいなどということは口が裂けても言えません。

本当のことを言えば、こんなに若いのに命を取られてたまるかという気持ちがとても強かったです。何とかして兵隊になることから免れたいとおもいました。父にはバレましたが、一人で絶食し、体力を落としてついには、風邪をひいて肋膜炎になってしまいました。私が兵役から逃れたいと思ったのは、文学の影響だと思っています。

モーパッサンの作品に「脂肪のかたまり」というのがあります。その一節に「今日もバリの郊外でフランスの軍隊が人殺しの練習をしている。」があります。私はたったそれだけで強い衝撃を受け、考えが変わりました。戦争は人の殺し合いであり、何のためになるのかと思いました。

ボードレールの詩の一節にも「やがてつめたき闇に我ら沈まん。いざさらば、つかの間なりし夏の光よ」というのがあります。この詩が心にピタッときました。かり出された人も志願した人もものすごく辛い気持ちであつたと思います。物質的にも精神的にも苦しかったと思います。

しさん(主婦)

私の父は軍国主義で戦争にいきたがった方だと思います。今は戦争自体を反省していますが、当時それがよい、素晴らしいと思わせることができたのは何故なんでしょう。

Aさん(男性)

幼稚園の頃の歌にこんなものがありました。「ぼくは軍人大好きよ。今に大きくなったなら勲章つけて剣下げて、お馬にのってはいどうどう」

小学校一年の教科書には、「ススメ、ススメ、ヘイタイススメ」という文句がありました。

そんなことを言ったら憲兵隊に引っ張ってかれますよ。

Cさん(男性)

憲兵は今の警察よりはるかに恐い存在でした。

Aさん(男性)

私は戦争が終わる三日前に「戦争が終わる」という内容の電波を傍受しました。私は海軍二等兵曹という下っ端でしたが、勝手に傍受したということで、三日間倉庫(牢屋)に放りこまれました。

Dさん(女性)

今度は逆に若い方にお聞きしたいのですが(笑い)君が代について皆さんはどう思われますか。私はいい歌だと思っんですけど。

司会

じゃあ、逆質問ですけど答えられる人いますか。意見でもいいですよ。

十五歳になったら、志願して国のために死ぬことを理想化していました。志願していく兵を学校中で応援しました。

その頃流行った歌に「海ゆかば」というのが在りました。「海ゆかば水浸くかばね、山ゆかば草むすかばね」という非常に荘厳でカッコ良い歌です。こうした国のために戦争で死んでいくことを正当化する歌がどんどん流行っていました。

私は当時から、国のために出征していく紅顔の美少年をみて一人なげいていました。

お母さんたちは、本当にそうやって死んでいく子供達を見て喜んだのでしょうか。

Dさん(女性)

いや、喜んでなんかいませんよ。

しさん(主婦)

なぜ、それが正直に言えないのですか。

Dさん(女性)

Gさん(高校生・男性)

私たちは君が代を小学生の頃から本当の意味を知らずに歌っています。国歌ということでも何も考えてなかったけれど、高校に入って本当の意味を知り、天皇を賛美する歌をうたうべきかなと考え、今は、歌えと言われても歌わないようにしています。

一方日の丸は戦争の出征兵への寄せ書きのイメージがあり、いやだなと思います。

Dさん(女性)

女性の方はどうですか。はつきり仰ってください。

Jさん(高校生・女性)

物心付く頃から意味も知らずにうたわれ何も感じていません。歌えと言われれば歌います。

Hさん(大学生・男性)

幼少の頃から軍国主義が感じられ君が代・日の丸は反発を感じています。特に、式で日の丸が掲げられているのを見ると異様な感じがします。まるで右翼のよ

うな気がします。

入学式も卒業式も君が代を歌わないようにしていますが、反発するのは勇気がいります。

Dさん(女性)

貴重なご意見有難うございました。

Aさん(男性)

君が代の文句はおかしいと思いませんか。さざれ石がいわおになるなんて。自然科学的にみてもおかしい。

Eさん(男性)

今の高校生がうらやましいです。幸せだと思う。昔ならそんなことを言うと、憲兵隊にひっぱたかれた。私はせんそう中に教会にいったら特高に見つかり、今の御器所署に引っぱられ聖書を取り上げられました。戦争が終り、御器所署に「聖書を返してくれ」といったら「そんなもんあるか」と言われた。

いまの皆さんは羨ましい。どんどん言うべきだよ。我々の時代は情けなかった。

Aさん(男性)

国民の祝祭日は、昔は全部学校に行っていました。例えば、天皇が生まれた日は、天長節といっていました。また、明治天皇が生まれた日は、明治節といっていました。

祝祭日には、必ずその町出身の軍人が来賓として参加していました。例えば、陸軍中尉とか海軍少尉とか必ず一番前に座っていました。

講堂の中央には御真影と呼ばれる天皇陛下のお写真が掲げてありました。天皇陛下はただ偉いのではなく大元帥という最高の権力を法的に与えられていました。

ですから、子供心に祝祭日は必ず学校に行かなければならないと思いましたが、「勝つ」「勝つ」と放送で流されると絶対勝つと思っていました。

司会

他にありませんか。

Hさん(大学生・男性)

Gさん(高校生・男性)

僕の父はかつて政治に興味があつて、活動していたのですが、その父でさえ、政治批判や思想的なことを話すと、「あまり、そういうことを言うな」といいます。

Hさん(大学生・男性)

5月3日の憲法記念日に鶴舞公園で革新陣営の集会があつたのですが警察の装甲車がじつと待機していました。ああいうのを見るととても怖いとおもいます。

Gさん(高校生・男性)

日本は、自由主義だといっているけど、実際は自由

風景 集い 語り継ぐ戦争



ごっこじゃないかと言われています。僕もそう思います。Aさんが成績が悪いと昔はサイパンに送られると言われたけど、今だって成績で志望校に振り分けられています。理論も何も分からない受験の知識を詰め込まれているんです。全く一緒だと思います。

司会

そろそろ時間になりましたので、ここで終わりたいと思います。

今日のこの会は昨年と異なり、戦争を語る側と聴く側が 自由に語り合うことができてとても良かったと思います。

過去の戦争というマイナスの財産をキツチリ見つめ若い方が、自分達と関係がないというのではなく、これからの生き方に繋げていくことが大切ではないかと思えます。貴重な話を有難うございました。

今日のこの会はこの語る会にもない豊かな会ではなかったかと思えます。

主催者お礼の挨拶

戦後四十五年たって、戦争体験が風化してきているといわれています。そして、見えない所で、再び戦争が起きる危機に近づきつつあると言われています。

今日はそうした意味で、戦争というマイナスの財産をプラスにしていくとてもよい機会だったと思います。私達はこれからもこうした機会を積極的に持ち、二度と戦争を起こしてはならないという気持ちを強く持ちたいと思います。

本日は本当に有難うございました。



氏名 大上 美江 (主婦)

私は昭和19年生まれで終戦の1年前、満州奉天の病院で生まれました。父親30歳母親21歳の始めての子供です。父は奉天にある会社に勤務していたそうです。

20年8月終戦 兵隊に行ったことのある成人男子は、数箇所に集められ、連、シベリアに汽車に乗せられて連れていかれたそうです。年配の男子と女・子供は帰することになったそうです。何日までに港のある所へ移動することになり、来ない人はいていくと言われたそうです。

母は、見知らぬ土地でまだ22歳になったばかりで1歳と数か月の私を連れ、荷物もの回りの物だけ。幼児を連れていたため、おしめと数枚の写真、貯金通帳、現金。

有るだけを身に付けリュックを背負い、ヨチヨチ歩きの子供の手を引き列の最後尾をずっとことづいていったということです。皆が休みしているのに、やれやれ休めると思うと「さあ出発」と皆が歩きだし、仕方なく荷物を背負い、よろよろと歩かなければならなかったそうです。

1歳数か月の私は歩くといっても、なかなか歩かず、リュックに入れてあるかなければならない日が数日も続いたそうです。

やっと船に乗せてもらった時は、「これで日本に帰ることができる」と思い、京都府舞鶴港に着いた時はみな涙して、抱き合って泣いたそうです。

帰国の際のことは、まだ小さかった私は、情けないことに何一つ覚えていないのです。まず、今日あることは母のおかげと感謝していますが、すぐ忘れてしまい身勝手なことを言ったり行動をしたりしてしまいいろいろ反省してしまいます。

娘が、夏休みの社会の宿題でおじいさん、おばあさんに戦争の時の話をきいてレポをださなくてはならなくなり、私の父母は遠くにいてお盆に帰省したときしか聞けないで今日参加した訳です。

鳴海や名古屋市内の当時のことは、初めて聞くことばかりで、興味を持って聞かせてきました。円上の空襲のお話大変リアルでびっくりしました。戦争中の学校生活のおもそんな時に学生でなくてよかったと思います。

自分の子供達がそんな教育を受けなくてよい時代に生まれてきて良かったと思う反面高校生の子供達の話も現代をあらわしているなあと感じました。

1990年 名古屋市緑社会教育センター

戦争体験を語り継ぐ集い

感想文集

1990年 8月 7日 (火)

10時 ~ 12時

名古屋市緑社会教育センター

視聴覚室

講師 小出 裕

氏名 伊藤 誠一 (男性)

若い人々が参加されているのが、とても嬉しかった。来年は、愛労連緑地域センターや年金者組合緑支部とも協力して、もっと盛大な集いにしてはどうか。

氏名 下郷 幸子 (女性)

家には、昭和23年生まれの子と嫁さん、中学2年生、小学5年生の子と一緒に住んでいます。今日の話し合いでは本当のありのままの話が聞けたと喜んでます。

私の兄は、東区の空襲の直撃を受けて戦死しました。兄嫁さんは同じ防空壕にいて、その後しばらくからだの都合で、母が疎開先から赤塚の家に通いました。

家には3つ爆弾が落ちて、たいへんだったそうです。

氏名 中島 博江 (女性)

教育・マスコミ等による言論の統制、戦争賛美の積み重ねのうちに、軍国少年、軍国主義日本がつくりだされていったと言う話を聞くうちに、敗戦後45年もたつ今日の日本の中にも、目に見えない言論統制が敷かれているように思われてくる。

学校の中にも職場の中でも、政治の話や原発の話、天皇批判。タブーになり、中学の内申書は、事実上の思想統制ではないかと――。

戦争に喜んで参加していった人は少ないはずなのに一億玉砕にまで突き進んでいったその力はなんだったのかと考えるとき今日の「自由」という状況が果たして本当なのだろうかと思わしく思えてくる。特高も憲兵も存在しないのは大きな違いといえるが半世紀前の日本もきっと同じように戦争の足音は音も立てずに闇のように忍び寄ってきたのではないか。

だからこそこういう会がもたれ、多くの人々に戦争の事実が語り継がれていく意義があるのだと思う。

貴重な経験をお話くださった方に感謝いたします。そしてもっともっと多くの方々に戦争の体験を語っていただきたいと思います。

(高校生・男性)

僕の祖父・祖父の兄ともに軍人でした。反対に父は全く違った考えの人でした。そういった中で僕は生まれました。僕が祖父母と話す時はいつも戦争の話でした。です

(中学生・女性)

戦争の前も戦争中も大人達は随分苦勞され、えらかったなあと思いました。食べるものがないということはつらいですね。私は部活で疲れて帰って来たとき、すぐに食べるものが無いと文句を言います。しかし、戦争中はそんなことは言っていられなかったと思います。

戦争中に生まれなくてよかったと思いました。また、戦争はいけない事、悲しくて辛いこと言葉では言い表せないくらいのことなんだなあということが分かりました。

(高校生・女性)

私は今日、いろいろな話を聞くことが出来て、とてもよかったと思います。私の知らなかったことばかりで、驚くようなこともたくさんありました。日頃とても平和な生活をしているので、戦争があったことさえ忘れてしまいそうになりますが、これからの日本を造っていかねばならないのは、私達の世代だと思います。

ですから、私達は、もっと戦争を知って、考えて、もう二度と戦争が起こらないように努力しなくてはいけないと思います。

戦争について、今日ほどいろいろなお話を聞かせていただいたことはありませんでした。私達のすんでいる辺りの話なので身近に感じられました。

また、こういう機会があったらいいと思います。

(高校生・女性)

火の中を逃げ回る話や爆弾が雨のように降ってくることもなんかは、原爆のあった広島・長崎、それに東京などの限られた大都市だけのごく一部だと思っていました。

そんな私に、今日の話は、自分の考えを改めさせられる良い機会になりました。自分がすんでいる地域というとても身近な場所で、今まで遠くて、関係がないと思っていた恐ろしい事実があったということを知り、物凄く怖いと思うと同時に信じられない気がします。こんなことから、自分がどれほど、戦争から離れ、忘れて生きてきたかと思えます。

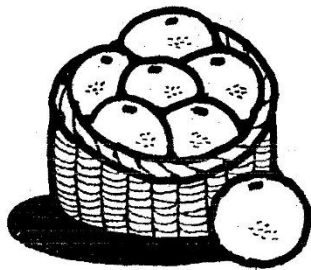
今回この会に参加させて頂き、戦争についてじっくり見つめ直すことができました。これを機に、興味を持って接していきたいと思います。本当に有難うございます。

氏名 栗山 国治 (男性)

今日の体験を語り継ぐ集いに参加させてもらい、いろいろ貴重な体験談を聞かせて貰いました。私達は、殆ど戦争真っただ中でも、苦しい思いをせずにすごしました。

今日のこの集いには、本当は、老妻を出してやりたかったのですが、残念なことに家には寝たきりの義母がいるため、私が(あまり苦しい戦争経験の無い)出席する羽目になってしまいました。私は、戦争の真っ最中に相模原の陸軍通信学校に学生として居たために本当に苦しい体験がお話できないわけです。

老妻は、戦中、戦後を通じて、色々苦しかった話を食べ物を残したときの孫に言っているようです。



から、小さいころから戦争は絶対いけないものだという固い意思がありました。

中学位になって、一時期なんかそういった血生臭いどろどろした戦争の話は「知識としてあるからもういいや」という気が自分にはありました。しかし、ある本を読んだとき「これがいけない」ということに気づき、歴史から目をそむけては、絶対にいけないということに気づきました。いま、日本は決して自由であると言い切れません

それに、どんどん違った形ではあるけれど、軍国主義にすすんでいると思うことがあります。自由があるだけでは、何の役にもたたない。だから、この自由が形だけの自由として捨てられることがないように、これからの世代は、真の歴史を語り継ぎ、そして、伝えていかなくてはならないと思います。もっと自由でいたいしもっと人間らしい生活がしたいから、僕は、どんなときでも自由な発言や行動をしていきたいと思っています。

絶対、昔の日本に逆もどりさせないために。

(高校生・女性)

私は、この会にはじめて参加させて頂きました。自分で体験してみた方が苦労はよくわかるとおもうのですが、今回参加してみて知識が深まり、今まで自分が持っていた考えとは違った考えが持てるようになりました。中でも「君が代」のことには、あっと思わされた部分がたくさんあったような気がします。意味も知らず歌っていたはいけないと思います。

もし機会があれば「君が代」の意味やこの歌が出来たときの日本の様子などを調べてみたいと思います。私は、戦争体験者ではないけれど、将来今日聞いた、貴重なお話を子供達にも伝えていきたいと思っています。

今日は本当にありがとうございました。

(高校生・男性)

今回の会では、受け答えの形で、一方通行ではなかったのも、とてもよかったと思います。今回では、ビラや爆弾のことなど新しく知ったことが結構ありました。前回の戦争では、一番最後に原爆が落とされたのですが、今度戦争があったら、スイッチ一つで終だと思っています。

名古屋では、熱田空襲しかよく知らなかったのですが、他の空襲も聞けてよかったです。今後も、戦争反対の一人として、戦争をしないということを訴えていきたいと思っています。